情報アラカルト

京都府仏具協同組合

総会開催、田中理事長8選

業界の新事業、展望語る

写真。

京都府仏具協同組合は5月19日、京都市内で2026年度通常総会を催し、理事長の任期満了に伴う改選で田中雅一・田中伊雅佛具店社長を再任した。田中理事長は8期目で任期は2年間。

総会では、25年度事業報告と収支決算報告、26年度の事業計画案・収支予算案などの議案が承認され、役員改選が行われた。新役員は総会後の懇親会で登壇し、田中理事長が代表して挨拶した＝

田中理事長は「世界の情勢を見るとウクライナ戦争や中東情勢の影響で各種原材料が高騰している。コロナ禍を経て葬送儀礼の簡素化の傾向がより強まり、伝統産業、とりわけ仏壇・仏具業界は厳しい状況にある」と語った上で、業界の新事業「おどりば」について触れた。「おどりば」は、京都府仏具協同組合が加盟し、田中理事長が会長を務める業界の全国団体「全国伝統的工芸品仏壇仏具組合連合会（全仏連）」の新事業で、個人の心の拠り所や祈りのスペースを提案する。次の全仏連理事会の承認をもって、来年4月に「伝統工芸　青山スクエア」（東京都港区）で展示会を開く。田中理事長は「伝統産業の技術を使って商品を提供できればと思う。『おどりば』は需要開拓の一環として取り組みたい。皆さまのご協力をお願いします」と結んだ。

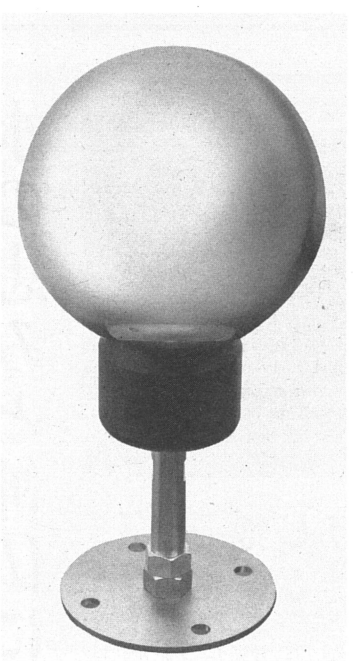
京都府仏具協同組合の事業の柱の一つに展示会事業が挙げられ、昨年秋にはコロナ禍以降初となる本格的な展示会を開催。今年度の事業計画にも盛り込まれた。

理事長以外の役員は次の通り（敬称略）。

副理事長＝作島寛、雁瀬敏彦▽会計理事＝安藤宇助▽理事（商部会長）＝関崎弘和▽理事（工部会長）＝髙木正司▽理事＝乾一雅・井上浩司・吉田達生・吉田光宏・中井伸明・牧野俊之・鹿取千恵・清水ひろみ・辻能克▽監事＝若林智幸・下出祐太郎

落雷抑制システムズ

雷「寄せ付けにくい」避雷球



左は高さ約40㌢、重さ約5㌔の避雷球。主要構成材料はステンレスとポリカーボネート。右は牛久大仏頭頂部に設置された「避雷球―ＡＬＢ（大）」＝円内

極端な気象現象が頻発する近年、落雷も増加傾向にある。落雷対策専門メーカー「落雷抑制システムズ」（横浜市西区）の松本敏男社長は「もう雷が落ちて『運が悪かった』で済まされる時代ではない」として「雷を寄せ付けにくくする」新型避雷球「ＰＤＣＥ（ピーディーシーイー）」を提供している。

雷害で火災報知器、防犯装置などの設備が故障、停止し、1度で数千万～数億円の被害が生じるケースもあるという。寺社にとっても電気が欠かせない現代、できる対策はしておきたい。

従来型の避雷針は、先端の電極からプラス電荷を放出して雲中のマイナス電荷を呼び込み、雷を特定の場所に誘導する「お迎え放電」をしやすくする仕組みだが、同社の避雷球は、電極の形状を突ではなく放電しにくい半球にし、絶縁体を挟んで地面からの電流を極力抑えることで「そもそも落雷を発生させない」仕組みを実現した。

高さ120㌢の牛久大仏（茨城県牛久市）は、かつて数年に1度の頻度で雷害に遭っていた。外壁がブロンズ製で、像自体が避雷針の役割を果たしていたため損傷はないものの、内部の弱電設備の被害が懸念されることから2010年に「ＰＤＣＥ」を導入、以降直撃被害はない。他にも大手私鉄の沿線や学校施設、大規模イベントの会場にも導入され、効果を発揮しているという。

松本社長は「神社仏閣など日本の建築物は素晴らしいもの。雷は一瞬にしてそれを奪うことがある。守るためにも、導入を検討していただければ」と語る。

問い合わせは同社ホームページ。

アサンテ

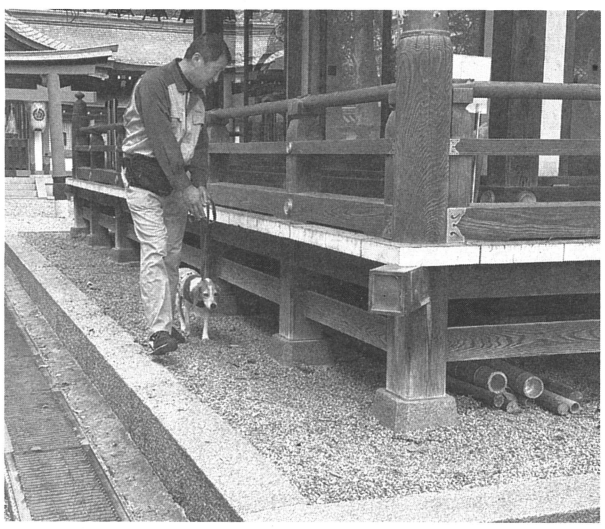
寺社建築など「木の文化」守る

シロアリ対策、綿密に

シロアリ対策をはじめとした総合ハウスメンテナンスサービスを提供する「アサンテ」（東京都新宿区）は、創業以来約50年培ってきたノウハウを生かし「木の文化継承プロジェクト」を立ち上げた。日本の歴史的木造建築と四季を楽しむ文化を守ることを目的に、神社仏閣や木造文化財、教育現場へのシロアリ防除施工、梅や桜に被害をもたらす特定外来生物・クビアカツヤカミキリの駆除などに取り組む。昨年4月の発足以来、神田明神、杭全神社、鶴岡八幡宮などで活動している。

プロジェクトについて、同社の蛭沼真識氏は「シロアリ被害のリスクと対策の重要性を広く啓発することも目的としている」と話す。

調査では、高度な専門知識を持つ「シロアリバスターズ」が建築物の構造や侵入経路、被害範囲を見極め、最適な対処を施す。また同社が日本で初めて導入したシロアリ探知犬のチーム「くんくんズ」も活躍する。優れた嗅覚で隠れたシロアリを探し出し、床や壁をはがすことなく非破壊で正確な調査を可能としている。宗教上の理由などで犬の進入が不可能な場合は、人間のみで作業する。



杭全神社（大阪市平野区）でシロアリ探知を行う「くんくんズ」のアリスちゃん

蛭沼氏は「日本はシロアリにとって理想的な環境。被害はつきものとはいえ放置はいけない。蟻害・腐朽がある家屋は震災時に倒壊するリスクが非常に高い。修繕費用などを考えると定期的なメンテナンス、防蟻処理を施した方が経済的だ」と害虫対策の重要性を説く。また4月から6、7月にかけてはシロアリが羽アリとなって群飛するため、被害に気づくチャンスだとして「早期発見・早期対処が寺社を守る鍵となる」と語る。

問い合わせは同社ホームページ、またはフリーダイヤル（0120）557419。